

# おとがわエリアビジョンとは 第1章

おとがわエリアビジョンは、乙川リバーフロント地区公民連携まちづくり基本計画（QRUWA 戦略）における乙川エリアについて、乙川の将来の活用イメージを定義し、エリアの目指す姿や乙川エリアで実施するプロジェクト、マネジメント体制等を示すものである。

## おとがわエリアビジョン策定の目的 ※エリアビジョンは平成 30 年度（2018 年）に策定され、令和 4 年度（2023 年）に一部変更を実施した。

エリアビジョンは乙川エリアの将来の活用イメージを定義し、以下3点を目的に策定する。

- ① 地域・民間・行政でエリアの将来像と短期・中期・長期で展開するプロジェクトや活用イメージを共有する。
- ② みんなで目指す姿を共有し、同じ方向を向いて、地域は暮らしに、民間は事業に、行政は計画・施策に反映していく。
- ③ 目指す姿を明確にすることで良質な民間事業者を呼び込む。

## おとがわエリアビジョン更新のポイント

### 生活者も含めた「私の川」になるようなビジョンへ

現在（2023 年）は社会実験期を終え、継続的に活動している事業者や団体も増えるとともに、日常的に乙川を楽しむ市民の姿もよく見られるようになった。今回の改正では、そのようなエリア環境の変化を鑑みて、事業者やプログラム実施を前提としたエリアビジョンではなく、市民一人一人がもっと自由に乙川を楽しむことができるような生活者目線を加えたものとした。それにより、より深く乙川に親しみ、乙川やこのまちを大切に思う人を増やしていきたい。そんな意図をもって更新を行った。

### おとがわエリアビジョン（更新後：2023 年策定）の構成

目的	1. おとがわエリアビジョンとは
基本情報	2. 乙川エリアの基本情報
目指す姿	3. 乙川エリアの将来像（目指す姿） ゾーニングとイメージ、推進体制と利活用スキーム
実現手段	4. 乙川エリアで行われるプロジェクト 主要拠点プロジェクト・行政主導プロジェクト・民間活用プロジェクト
提案	5. おとがわエリアビジョンの実現に向けて

## おとがわエリアビジョンの検討の流れ

### おとがわエリアビジョン更新ワークショップ

プログラム実施者、地域住民を対象として、ワークショップ（全 3 回）を実施した。ビジョン案を話し合い、実現するためのアイデアを出し合った。



## おとがわエリアビジョン更新のポイント

- ① **エリアビジョン構成の整理**  
エリアビジョン全体の構成を整理した（11 章構成→5 章構成）
- ② **乙川エリアの基本情報（2章）の更新**  
より地域住民の視点を取り入れるため、川を広くとらえた上で基本情報の更新を行った。
- ③ **乙川エリアの将来像（3章）の具体化**  
乙川エリアの将来像を具体化するために、5つのレイヤー（自然・環境、風景、特別な日の乙川、いつもの乙川、コミュニティ、周辺エリアとのつながり）に分けて整理を行い、ワークショップ等で出された意見を参考に、キャッチコピーとビジョン実現のための具体アクションを抽出した。
- ④ **個別プロジェクトの（4章）の情報更新**  
現状に合わせるため個別ヒアリングを実施し、情報の更新及びプロジェクトの追加等を行った。また行政が実施するプロジェクトも新たに掲載した。
- ⑤ **エリアビジョン実現に向けて具体的な方策（提案）を掲載**  
次回更新までに実現することを想定した、エリアビジョン実現に向けた具体的な方策を追加した。

### 個別ヒアリング

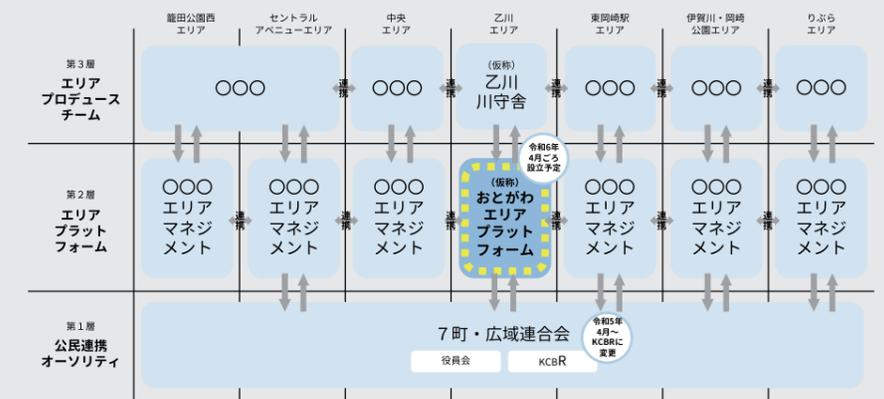
乙川エリアで具体プロジェクトを推進している行政担当課 8 課と民間 16 事業者を対象に個別ヒアリングを行い、ビジョンへの反映を行った。



# おとがわエリアビジョンの 実現に向けて 第5章

## 1.（仮称）おとがわエリアプラットフォームの設立

おとがわエリアビジョンを実現することを目的に、乙川エリアを対象にしたエリアマネジメント組織「（仮称）おとがわエリアプラットフォーム」の設立に向け動きまします。エリアプラットフォームはエリア内の拠点事業者、地元企業、民間プレーヤー、町内会等のメンバーで構成され、エリアの課題解決や価値向上の役割を担います。7町・広域連合会（KCBR）への参加や他エリアのマネジメント主体（次世代の会等）とも協働関係を結び、連携しながら進めていきます。



## 2. エリアプロデュースチームの役割整理と位置づけ

エリアで行われるプロジェクトの具体化や民間事業者とともにエリアの魅力を高める事業実施さらには各事業者やそれらが行う活動をつなげることでエリアの特性を最大化するエリアの世話役チーム（エリアプロデュースチーム）が必要と考える。前述したエリアプラットフォームとの連動が必須であり、エリアプラットフォームの実働組織ともいえる。エリアプラットフォームの事務局を担い、自身の事業を進めながらビジョン実現を進める。

## 3. エリアビジョンの広報・プロモーションの推進

エリアビジョンは作って終わりではなく、認知を広げ事業者やプレーヤーだけでなく、日々、乙川を利用する市民までもがビジョンの実現に向け、それぞれの置かれた立場で行動を起こしていくようなものになることが望ましい。そのために次年度以降から、エリアビジョンの広報・プロモーションを推進していくことが必要だと考える。